



# A あ O お B ば A

千葉市立青葉病院  
広報紙

Vol.35

令和5年12月1日発行  
(年2回発行)

わかりやすく納得のいく医療を 心のこもった笑顔で



発行/千葉市立青葉病院 〒260-0852 千葉市中央区青葉町1273-2 TEL.043-227-1131(代) FAX.043-227-2022 <https://hospital.city.chiba.jp/aoba/>



## 青葉病院の 医療安全の取り組み



「医療安全」について青葉病院の医療安全室の地引利明室長と小澤晶子副室長に  
お話を聞きました。

**Q. 医療安全室は、どのような職種  
の人がいて、なにをしているところで  
すか？**

A. 医療安全室は、医療安全活動を通して患者さん・ご家族・職員、そして地域で暮らす方の「安全」を守り、質の高い医療サービスを提供するために活動を行っています。医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務部門にて構成され、それぞれの専門性を活かし安全活動を推進しています。

「患者さんの安全」「職員の安全」「医療事故への対応」「医療の質の担保」といった4つの柱で活動をしています。当院の理念でもある「わかりやすく納得のいく医療」を目指し、患者さん・ご家族にも積極的に医療に参加していただき、ともに安心・安全な医療を創っていくための体制作りを力を入れています。

**Q. そもそも医療安全とは、どのよう  
なことですか？**

A. 医療安全は、当院を利用するすべての人と地域で暮らす人の安心・安全を確保することを目的



左)地引利明室長 右)小澤晶子副室長

としています。安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療安全の必要性や重要性を自分自身の課題と認識し、安全な医療を遂行することが重要だと考えています。

## Q. 青葉病院では医療安全に対して、どのような取り組みをしているのですか？

A. 医療安全室では、4つの柱を目標に取り組みを行っています。

「患者さんの安全」では、すべての職員にヒヤットしたことやハットしたこと、何らかの発生した問題を、「インシデントレポート」といった報告書で提出することとしています。提出された報告書を集計・分析し、事故防止対策を立案し院内に周知しています。最低月1回は医療安全室メンバーでカンファレンスを行い、院内で起きている事例の検討や取り組みの評価を行い、改善活動を行っています。そして、定期的に医療安全室のメンバーが医療安全ラウンドを行い、部署の困りごとや対策の実施状況、不具合の確認を行っています。

また、地域の病院と協働して医療安全・医療の質の向上を推進するために相互に安全体制を評価して、安全体制の強化を図り、患者さんにとって、安



心・安全な医療が提供できるような体制作りをしています。

全職員に対しては、医療安全に関する教育・研修を行っています。事故防止や患者さん・ご家族との信頼関係を構築するため、院内に限らず院外で研修の機会も作っています。また、各部門の責任者全員に、医療安全管理に関する研修を受講する機会をつくり、各部門からも医療安全活動を推進しています。

「職員の安全」では、職員にとって安心・安全な職場環境を作ることに取り組んでいます。職員の安全を守るための医療機器・器具・材料の変更や導入を検討しています。またお互いに信頼しサポートしあえる関係性を築くことができるような風土づくりにも力を入れて取り組んでいます。

「医療事故への対応」では、十分な対策を講じていても、患者さんにとって不利益が生じてしまうことが



あります。その際には、どのようなことがあったのか事実確認を行った後、医療チームと連携を図りながら検証・検討を行い、原因の究明と、再び起こさないための改善策を見出しています。その結果を患者さん・ご家族へ説明の場を作っています。

「医療の質の担保」では、医療の質向上の取り組みを行っています。患者さんの安全を守るためには、提供する医療の質の担保と向上させることが重要となります。チーム医療が推進されると、患者さんの重症化を予防したり、回復を早くしたりといった効果をもたらすと言われていています。医療安全室では、院内で活動する専門的チームと協働し、チーム医療を推進することにより医療の質の担保と向上に向けた活動を行っています。



## Q. 病院を受診したり、入院したりする患者として、なにか気を付けることはありますか？

A. 青葉病院は理念に掲げているように、「わかりやすく納得のいく医療」を提供することを大切にしています。患者さんが安心・安全な医療を受けていただく上で、患者さんと医療者のパートナーシップを大切な事柄として位置付けています。疑問に思うことやわからないことがある場合、体調に変化が感じられる場合は、ためらわず医療者へお伝えください。

安全を確保するには、患者さんの協力が必要です。



特に患者さんを間違えないようにするためには、毎日顔をあわせていても確認をすることが必要となります。そのために、生年月日とフルネームを患者さんご自身に名乗っていただいております。外来においても、場面・場所が変わるたびに同じように確認させていただいておりますので、ご協力をお願いいたします。

## Q. 最後になにかメッセージがあればお願いします。

A. 当院の理念である「わかりやすく納得のいく医療を心のこもった笑顔で」が提供できるように、患者さん・ご家族との対話を大切にしていまいます。疑問に思われたときや、気になることがあるときには、遠慮せず医療者へご相談ください。青葉病院では今後も患者さん・ご家族、地域で暮らす人々に、安心安全な医療を提供できるように、取り組みを続けてまいります。

# 「登録医」のご紹介

## 高部内科医院

住所: 〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-49-6 TEL: 043-233-1321

診療科: 内科、小児科

	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30~11:30	●	●	●	●	●	△	×	×
15:00~18:00	□	●	×	●	●	×	×	×

◆休診: 水曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝日 △9:00~11:30 □15:30~18:00 ※受付は診察終了時間の10分前まで

高部内科医院の高部庸介と申します。当クリニックは昭和53年に内科医の父が千葉市都町に開院し、平成8年から私が引き継ぎました。専門は循環器内科でしたが、当初より地域医療に携わる総合診療医(ジェネラリスト)を目指しており、現在は風邪、花粉症、脂質異常症、高血圧、糖尿病などの生活習慣病を始めとして呼吸器、消化器の慢性疾患など幅広く診療しております。検査においては心臓超音波、負荷心電図、ホルター心電図などの循環器系検査、その他、腹部超音波、頸部超音波を行っており、緊急の対応からスクリーニング、定期的な観察まで積極的に行っております。

地域医療に携わるようになってから早15年が経過しました。

様々な患者さんと接するにあたり、改めて感じたものは、そもそも医師であれば当前のことでもある「いかに患者さんの身になって診療にあたるか」ということです。重篤な状態で緊急の紹介を要する症例

は然ることながら、慢性的な肩こりや腰痛、めまいなどの長引く症状など、傍目には些細なことではあっても患者さんにとっては精神面にも響く一大事となることもあります。それ故に、どんな小さな訴えに対してもすべての患者さんにとって少しでも助けになれるよう、当院では患者さんの話をじっくり聞くように努めております。患者さん第一の診療を続けるため、自分の持てる力と知識をもって、今後とも診療に誠心誠意取り組んでいく所存です。

青葉病院の諸先生方、スタッフの皆様には当院での診療が困難な患者さんをお引き受けいただき、大変お世話になっております。

今後ともどうぞよろしく申し上げます。



「登録医」とは、青葉病院では千葉市セミオープンシステムに登録していただいた地域の医療機関です。セミオープンシステムとは、紹介により千葉市立青葉病院に入院した患者さんについて、診察・記録の閲覧を行うことができるというシステムです。

令和5年4月から  
令和5年10月までに  
新たに登録された医療機関を  
ご紹介いたします。



- FMF胎児クリニック東京ベイ幕張 (美浜区ひび野)
- ちぐさ会クリニック (中央区弁天) 登録日順